

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3270100617		
法人名	医療法人社団 回春会		
事業所名	認知症対応型共同生活介護 悠々の家		
所在地	松江市川原町308		
自己評価作成日	令和5年3月10日	評価結果市町村受理日	令和5年4月28日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 コスモブレイン
所在地	島根県松江市上乃木7丁目9番16号
訪問調査日	令和5年3月30日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

介護老人保健施設悠々園、小規模多機能型施設悠が隣接しており、季節に応じた行事や各月での行事も合同で行い、社会性を高め楽しみの持てる日常生活が送れるよう支援している。毎月、バイキング、誕生会、喫茶、弁当献立等の行事が行われ、美味しい物を食べる楽しみを感じていただいている。看護師が配属されており、利用者の日常的な健康管理や医療機関との連携をとっている。利用者中心で個別ケアが生かされた介護サービスが提供できる様日々努めている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

周囲に田園風景が残る自然の移り変わりが感じられる恵まれた環境にある。コロナ禍以前は、隣の老健に多くのボランティアや実習生の受け入れがあり、地域の中核施設となっていたが、かなりの制限が続いている。今年に入り2月からはクラブ活動や週1回のバイキング食を開始し行き来できるようになっており、花見の外出行事や面会の緩和も予定している。理事長が変わり新たな理念を作成。朝礼で唱和したり、ストレッチや体操、声出しをとりいれたり、参加した職員が発表したりと職員の意識統一に繋げる取り組みが印象に残る。複数サービスがあり災害時の体制は夜間でも整いやすいが、夜勤職員が集合して申し送りしたり、責任者を決め有事に備えるなど意識も高い。グループホームだけでは取り入れにくい複数のクラブ活動への参加や行き来が、認知症の症状の安定につながっていると共に、重度になってもグループ全体での対応が可能で家族の安心にも繋がっている。今後も職員個々にレベルアップすることでよりよい認知症ケアに取り組んでいただきたい。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 認知症対応型共同生活介護 悠々の家	理念をサービスステーションに掲示して、週初めの朝礼で唱和している。また朝礼、スタッフ会等で理事長をはじめ幹部職員より人間の尊厳保持、その人らしい生活の保持についての話があり日々意識統一を図っている。	数年前新理事長に変わってから新しい理念ゴールスタンダード 5スピリットが作成されている。隣接する老健で朝礼があり、唱和したり、上司から理念に関わる話がある。参加した職員も発表したりすることで意識統一に繋がっている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	併設の悠々園、小規模多機能悠との合同バイキングや行事、書道・絵手紙・手芸、園芸等のクラブ活動に参加し交流を行っている。	コロナ禍以前は多くのボランティア訪問があり、隣の老健で楽しむ機会が多かったが、ボランティアは中止状態。リハビリ専門学校の実習生の受け入れは継続している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	施設見学や入居希望の相談に対応することで地域との関わりを持っている。当施設の利用対象でない状態になられた際にも困らないよう対応している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実態、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2か月毎に開催しているが、コロナ禍の状況で外部から委員の参加は出来ていない。書面での報告を行い意見をいただきサービスの向上に繋げている。	コロナ禍の為書面開催にしている。民生委員、市、包括等に利用者の身体状況や、行事予定、活動状況を伝えることで意見を得ている。	会議内容を充実させることで、より多くの参加者から意見が得られサービス向上に繋がられるよう検討していただきたい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	介護保険のサービスに関する問い合わせを必要時行っている。介護相談員受け入れを行いサービス向上に務めている。包括支援センターとは利用状況の問い合わせや新規利用の相談等を行っている。	運営推進会議では専門的立場から意見を得ている。介護保険関連の問い合わせはメールでのやり取りが多い。介護保険更新時や変更申請の時など関わりがありいい関係が築けている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	併設施設・事業所と合同でリスクマネジメント委員会を設置し、身体拘束廃止に努めている。施設内研修のほか、朝礼での話や、ヒヤリ・ハットをあげることで周知徹底を図ったり、不適切なケアを無くす事で職員の意識を高めている。	1日数回、気分転換に外に出る方がいるが、職員と一緒に歩くことで落ち着けるようにしている。法人全体で委員会を行っており、接遇面でのヒヤリハット、言葉使いや不適切な行為を取り上げケアの向上に努めている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	身体拘束同様、リスクマネジメント委員会を設置し、研修を行うことで防止に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在利用している利用者はおらず、自己研鑽に委ねている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居前には施設見学、面談を行い、入居時には重要事項説明書・契約書の内容について丁寧な説明を行うと共に、不明点や疑問点についても説明している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	日常の様子を毎月お便りにして家族へ伝えている。面会時・ケアプランの見直し時、事故等あった時や体調変化があった時など連絡を取り意見を聞いている。利用者から日々の生活でわずかなことでも希望、要望を聞き改善に努めている。	変わったことがあればその都度電話をしている。現在の面会は窓越しの為、言葉を交わす機会は少ないができるだけ話をするようにしている。担当が毎月、日頃の様子を伝える手紙を送っており好評を得ている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月開催されるスタッフ会、ユニット会で意見を出す機会を設け運営に反映させている。	職員は年2回業務全般にわたった評価表を記入。自己評価したものを上司が評価するようになっているが、結果について個人面談する形にはなっていない。管理者は会議の場などで意見が出やすくなるよう心掛けている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	スキル評価表、介護技術チェック表、提出レポート等により勤務状況を把握している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実態と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	新人研修や外部の研修へ行き知識を深めている。ただ、異動等あり認知症・法令等の知識に関して職員差がある状況。ユニット会や申し送り時等に定期的に研修を行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	新型コロナウイルスの感染拡大が落ち着けば部会や外部研修等に参加して情報交換ができるよう計画している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	環境が変わることで不安にならないようコミュニケーションは十分図るよう努めている。常に御利用者のペースに合わせて対応している。担当職員を設けることにより、より個別に対応できるようにしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居に際し、病院、自宅、介護サービス事業所等に出向き、担当者、ケアマネ、ご家族、ご本人より状況を聞き、心配事、不安な事を尋ね、少しでも不安や心配事が解消するよう一緒に考えるようにしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人、家族からの情報、関係事業所、医師からの医療情報を検討し利用者が適切かどうか判定する。該当とならない場合、居宅介護支援事業所と連携を行い、適切なサービス利用の導入を支援している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日々の生活の中で、入居者を尊重し、共に生活する中で共感するという意識を持ち、入居者の得意とする事やできることを引き出し一緒に行うよう心がけている。レクリエーションや行事を入居者と職員一緒に楽しむよう行っている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	都度、生活環境、生活歴について家族、親族と情報交換を行い、共に支援するという関係が築けるよう努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	コロナ禍で外出や面会の制限があるものの、定期的に面会をオープンにしたり、家族の面会時にはゆっくり話ができるよう配慮したりして、関係の継続ができるよう支援している。	コロナ禍の為、友人や知人など家族以外の面会者はほぼ無い状況だが、感染状況に合わせて短時間でも会うことができるようにしている。4月以降はオープンになる予定。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者一人一人を尊重しながら、レクリエーションや行事を通じて職員が架け橋となり、なじみの関係が築けるよう支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	関係者やご家族と連絡をとったり、相談の問い合わせがあれば都度、対応して支援を行っている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居前、ケアプラン見直し時など、本人や家族が望まれる生活を伺い、意向に沿うよう努めている。	農業経験者は畑作りや園芸クラブ、裁縫好きの方には手芸クラブなど、好きだったこと、得意なこと、興味のあることが続けてできるように計画している。午前中は体操や歌、午後は個別対応の時間としている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人、家族、ケアマネージャーより情報収集し、調書の作成及びカルテを記載し、情報を共有している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日報、カルテ、連絡帳、ミーティング記録等より情報収集を行ってから勤務に就く。周知徹底事項、気付きは記録に残し、情報の共有化を図っている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	日々ケアや見直し時には計画作成担当者、利用者担当者を中心に、主治医の意見も尋ねてケアプランの見直しを行っている。	定期的にモニタリングを記入し、プランの見直しは6か月に1回行っている。コロナ禍の為本人、家族を交えて担当者会議はできていないが、電話や短時間の、面会時に意見を聞き計画に繋げるようにしている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	カルテ、ミーティング記録に日々の生活の様子を記載し情報交換している。連絡ノート、気づきノートを活用して職員間で情報共有を行っている。排泄時間を記録して日々のケアや、介護計画の見直しに役立っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	看護師が勤務しており、医療面では主治医と連携を図っている。また必要時には隣接する老健の管理栄養士、リハビリ等に相談する事もある。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	年2回の防災訓練で消防署より指導を受けている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医の定期往診がある。体調不良や怪我をされた場合は看護師が中心となり、家族、かかりつけ医と連携をとって適切な医療が受けられるよう支援をしている。	今までのかかりつけ医を続けることも、法人の協力医に変更することもできるが、定期の往診があり緊急時にも指示を受けられる法人の協力医に変える方が殆ど。コロナ禍の為、間隔をあけ4週に1回の往診となっている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	介護職は利用者の体調の変化、気づいた事等を都度、看護師へ報告・相談を行っている。看護師から主治医へ連絡・相談を行い適切な医療が受けられるよう支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	グループホームでの状況を文書で病院へ伝えている。日頃から病院の相談員と連携し、関係作りに努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	看取り、緩和ケアのマニュアルは作成している。早い段階から家族、主治医と話し合い、事業所の出来る事を説明しながら方針を共有し、他の事業所等とも連携して支援している。	介護度が比較的に軽い方が多く、重度になっても隣の老健での対応が可能のためグループホームで看取りをすることは少ない。状態に合わせてスムーズな移行ができており家族の安心に繋がっている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	ユニット会や日々の申し送り時に急変時の連絡方法の確認を行っている。急変時や事故発生時の対応・連絡方法をサービスステーションに掲示している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の防災、避難訓練を実施している。(夜間、昼間想定)職員は全員参加し、意識を高めている。併施設設とも連携を図るようになっている。	同敷地内に複数の事業所があるため日中、夜間においても有事の際の支援体制は整いやすい。定期的な訓練を行い備えている。原発に近いこともあり放射能対応の設備もあり、実際に稼働する形で訓練も行っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人一人の利用者の生活リズムに配慮している。利用者の性格や意向を理解して、声掛けや支援を行っている。	言葉がけで気になる場面もあったが、丁寧に接すると穏やかに変わられた方があり、周りの職員にも変化が見られている。身体拘束の委員会でも適切な言葉がけに対応したり、接遇研修でも繰り返し取り組むこととしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	職員主体のケアにならないよう、意向を確認しながら利用者主体のケアを心掛けている。自己決定ができるよう環境・関係作りに務めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	起床、就寝時間、家事や余暇時間の過ごし方等、本人の意思や希望を尊重して支援するようにしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	着る洋服は自分で選んでいただくようにしている。髪のカットも本人の好みにしてもらっている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者と職員と一緒に食事の準備や片付けを行っている。バイキングの時は本人に取ってもらえるよう支援している。	老健から副食は届くがご飯と汁物は作っている。盛り付けやかたづけなどできる作業はしてもらっていたが、コロナ禍の為職員がするようにしている。月1回のバイキングの他、弁当献立、スイーツを楽しむお茶会等があり楽しみになっている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分は好みの飲み物をできるだけ多く摂取できるよう働きかけている。食事状況を確認して摂取量や嗜好を把握するようにし、その方にあった食事形態の提供をしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後に口腔ケアを行っている。都度口腔内や義歯の状態を確認している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を活用して、個々の排泄パターンを職員間で情報共有して支援している。立位が難しい方もオムツの使用を減らし、できるだけトイレで排泄ができるよう支援している。	布パンツで自立の方が4人。紙パンツにパットの方が多いが、声掛けのいる方、確認のいる方、重度で尿意が無く付ききりの方と個々に合わせた対応になっている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便チェック表を活用して排便のリズムを把握するよう努めている。水分を多めに摂取してもらうよう働きかけたり体操や運動も行い排便を促すよう支援している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	皆様入浴を楽しみとされている。ゆっくりと入浴していただき身体と心がリフレッシュできるよう支援している。	重度で中に入れられない方はシャワー浴対応となっている。午前と午後は3時以降に3人ずつは入れるようになっており、全員入浴好きで楽しまれている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	本人の希望や習慣、体調等により午睡、就寝、起床できるよう配慮している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬に関する事はカルテに記載し、目的、副作用など分かるようにしている。薬は職員が管理しており、服薬時飲み込まれるまで確認を行っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	書道・絵手紙・手芸・音楽等希望のクラブ活動に参加してもらっている。個別の趣味活動も本人のペースでできるよう支援している。食事の準備や片付けを手伝っていただいている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天気の良い日は、希望、体調により出来るだけ屋外に出て外気浴を行っている。併設の老健の行事に参加することも楽しみにしている。	ここ数年はコロナ禍の為外出行事は減っていたが、徐々に復活してきており、花見も予定している。施設周辺は広く散歩したり、隣の老健へのクラブやバイキング食での行き来が外気浴のいい機会になっている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭管理は行っていない。外出行事で買い物をしたい方には、立て替え金を所持し買い物をしてもらっている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望により電話をかけていただけるよう支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用のスペースは清掃を行い、清潔を保っている。季節の花を生けたり、季節に相應しい飾り付けを行っている。ベランダに花を植えたりして季節を感じて頂けるようにしている。	デイルームは明るく大きい窓から外の景色がよく見え、季節の花や木、遠くに山々も眺められ季節の変化をいつも感じることができる。道路からも離れている為、車の騒音等も無く静か。壁には季節を感じられる手作業の作品が貼りだされている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	テレビの傍にソファを設置してのんびりテレビを観たり、利用者間で談話できるようにしている。窓際にもソファを設置しており日光浴や外の景色を眺めたり、一人で読書したりと自由に利用できるようにしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時に馴染みの物や今まで使用しておられた物を持ってきていただいている。レクリエーションやクラブ活動で作成した物を飾っている。	畳の部屋があり状態に合わせて使えるようになっている。タンスは備え付けがあり、衣装ケースを持参する方が多い。テレビやイスなど持ち込まれているが比較的少なく部屋が正方形なので広く感じる。家具の上には家族写真が置かれ眺めることができる。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	ホールの壁に大きなカレンダーを設置して日時がわかるようにしている。各居室の入り口に表札を掛けたり、トイレや浴室には都度職員が声掛け案内して、混乱されないよう安心していただけるよう配慮している。		